

公立大学法人埼玉県立大学の事業年度評価について

(1) 法人による業務の実績報告及び自己評価について

業務の実績報告及び自己評価の手順

小項目(年度計画の項目)ごとの業務の実績及び評価

○小項目ごとに、**記述**により業務の実績を明らかにする(①)とともに、業務の進捗状況を**4段階**で自己評価(②)する。

- S: 年度計画を上回って実施している。
- A: 年度計画を十分に実施している。
- B: 年度計画を十分には実施していない。
- C: 年度計画を実施していない。

○各小項目の評価結果を大項目単位で集計する(③)

大項目(中期目標の項目)ごとの評価

○小項目評価の結果(③)の内容をもとに、**記述式**により自己評価を行う(④)

評価項目(5項目)

- I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
- II 業務運営の改善及び効率化に関する目標
- III 財務内容の改善に関する目標
- IV 自己点検・評価及び当該情報の提供に関する目標
- V その他業務運営に関する重要目標

全体評価

○総合的な業務実績について、**記述式**により自己評価(⑤)する。

○参考例: 業務実績報告書記載イメージ

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

中期計画	年度計画	業務の実績	自己評価	備考
【研究資金の確保】 ・ 学科ごとに研究推進体制を確立し、若手研究者の科学研究費補助金への応募率を100%にする。	◆ 平成23年度科学研究費補助金への応募率90%以上(若手研究者については100%)を達成する。	○応募率 0% (現在募集中)	C	②:自己評価(4段階)
【産学官連携の推進】 ・ 産学連携の強化を図るため、地域産学連携センターの充実強化を図る。	◆ 地域産学連携センターに産学連携のための相談窓口を設置する。 ◆ 受託研究・共同研究を獲得するため、産学連携コーディネーターによる企業訪問を実施する(20件以上)。	○相談窓口を設置(4月) ○コーディネーターを配置(5月) ○企業訪問7件(10月末現在)	A B	

③:大項目ごとに各小項目の自己評価を集計

構成する小項目別評価の結果	自己評価	SWAの割合
S:年度計画を上回って実施している。	0	33%
A:年度計画を十分に実施している。	1	
B:年度計画を十分には実施していない。	1	
C:年度計画を実施していない。	1	

大項目評価(大項目の進捗状況)

大項目評価(大項目の進捗状況)	備考
教育開発委員会を設置し、新たなカリキュラムの構築に向けた検討を開始するなど、中期計画の達成に向けて、年度計画に掲げた事項を着実に実施することができた。	

④:大項目評価(小項目評価を踏まえて記述)

□全体評価

年度計画目標 209 項目中、年度計画を上回って実施している(S評価)項目が○項目(0%)、年度計画を十分に実施している(A評価)項目が◇項目(◇%)、年度計画を十分には実施していない(B評価)項目が△項目(△%)、年度計画を実施していない(C評価)項目が×項目(×%)という結果であった。
 理事長のリーダーシップのもと迅速に問題解決にあたる体制を整え、業務運営に取り組んできた。また、すべての職員が業務運営に参画できるように心がけ、教職員一丸となつての取り組みを行うことができた。

⑤:全体評価(大項目評価を踏まえて記述)

(2) 委員会による業務実績評価について

業務実績評価の手順

調査・分析

○ 法人から提出された業務実績報告書等をもとに、業務実績等を調査・分析(ア)する。



項目別評価(大項目)

○ 調査分析結果を踏まえ、大項目(中期目標の項目)ごとに5段階で評価(イ)する。また、その評価理由等を記述(ウ)する。

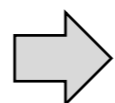
評価の目安

- 5 : 特筆すべき進捗状況 (特筆すべき進捗)
- 4 : 順調な進捗状況 (全てS又はA)
- 3 : おおむね順調な進捗状況 (S又はAが9割以上)
- 2 : 進捗がやや遅れている (S又はAが9割未満)
- 1 : 著しく遅れており改善が必要 (改善が必要)



全体評価

○ 総合的な業務実績について、記述式により評価(エ)する。



参考: 業務実績評価書記載イメージ

ア: 業務実績等の調査・分析 (業務実績報告書の確認・法人ヒアリング等)

- ・ 事務局がアの small project 評価 (H27:78項目) を確認
- ・ 評価委員会が中期目標の推進状況を評価できるよう、事務局が small project 評価の内容を整理

イ: ②、③、④及びアを踏まえ大項目ごとに段階評価(5段階)

項目別評価

I	大学の教育研究等の質の向上に関する目標
評価	2 : 中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。
(講評)	優れた専門職の育成と地域社会への貢献を目指し、教育研究体制の整備に取り組んでいる姿勢は評価できるが、年度計画に掲げた目標が十分に実施されていない項目が散見される。着実な計画の実施が望まれる。

ウ: 段階評価を行った根拠や評価できる事項、改善すべき事項等を記述

全体評価

○ 総評
埼玉県立大学は、埼玉県の保健・医療・福祉の分野における高度な人材養成や、教育水準の向上、生涯学習への対応や地域社会への貢献を使命としている。
平成22年度は、公立大学法人として最初の事業年度であり、理事長のリーダーシップのもと、教育、研究及び地域貢献に関して戦略的な取組が行われるとともに、業務運営の改善及び効率化に向けた積極的な姿勢がうかがえる。

○ 業務の実施状況
全体としては、年度計画に定めたほとんどの事項は実施されており、大きな問題は見られない。
業務の実施状況は、中期計画の目標達成に向けて順調な進捗状況にある。

○ 改善を要する事項
改善勧告を要する事項はない。

エ: ⑤及び項目別評価(イ・ウ)を踏まえ、業務実績全体を記述により評価

